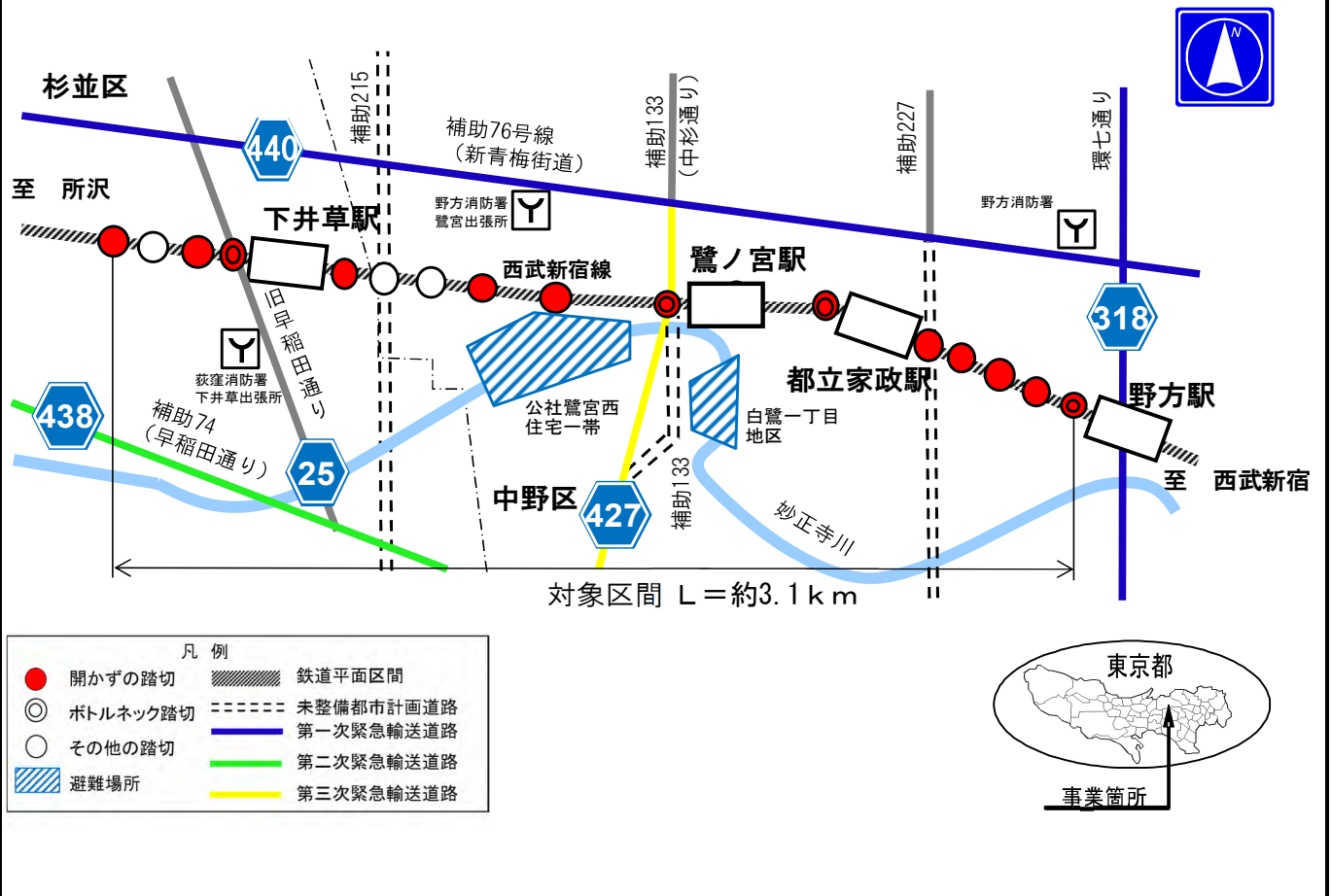


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

| | | | | | |
|---|---------------------------------------|--|---|-------|--------|
| 事業名 | 連続立体交差事業 西武鉄道新宿線（野方駅～井荻駅付近） | 事業区分 | 連続立体交差 | 事業主体 | 東京都 |
| 起終点 | 自：東京都中野区野方 至：東京都杉並区下井草 | | | 延長 | 約3.1km |
| 事業概要 | | | | | |
| <p>本事業は、西武鉄道新宿線の野方駅～井荻駅付近の約3.1kmにおいて、鉄道を立体化することにより、13か所の踏切（うち開かずの踏切11か所）を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。</p> | | | | | |
| — | | | | | |
| 全体事業費 | 約1,040億円 | 事業進捗率 | —% | 供用済延長 | — km |
| 計画交通量 | 171,131台時／日（踏切交通遮断量） | | | | |
| 費用対効果 | B/C (事業全体) 1.2 (残事業) — | 総費用 (残事業)/(事業全体) —/567億円 事業費：—/565億円 維持管理費：—/2.5億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) —/684億円 移動時間短縮便益：—/660億円 走行経費減少便益：—/6.9億円 交通事故減少便益：—/17億円 | 基準年 | 令和5年 |
| 感度分析の結果 | | | | | |
| <p>(事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.3（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=—～—（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%） 事業費：B/C=—～—（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±20%） 事業期間：B/C=—～—（事業期間±20%）</p> | | | | | |
| 事業の効果等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者、自転車の回遊性の向上 踏切の除却や都立家政駅、鷺ノ宮駅、下井草駅の立体化により、南北市街地の行き来が容易になり、歩行者・自転車の移動が円滑化され、回遊性が向上 ・ 高架下空間、上部空間の活用による都市機能の向上 高架下空間若しくは上部空間活用によるにぎわいの創出、住環境の向上 ・ 緊急車両のアクセシビリティの向上 踏切の除却により、救急搬送の移動時間の短縮 ・ 通学路の安全性確保 踏切の除却による、通学路の安全が確保 ・ 関連事業 鉄道沿線のまちづくり事業と一体的に進めることにより、総合的な都市基盤整備に貢献 | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | | | |
| — | | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 | | | | | |
| 事業継続を妥当と認める。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 | | | | | |
| 周辺環境等に特に変化はない。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | | | |
| 現在、構造形式や施工方法などの検討を進めている。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | | | |
| 今後とも、地元区や鉄道事業者と連携しながら、鉄道立体化に向けて着実に取り組む。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | | | | | |
| — | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。 | | | | |

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。